【投信調査コラム】日本版ISAの道　その335

情報提供資料
2021年6月14日

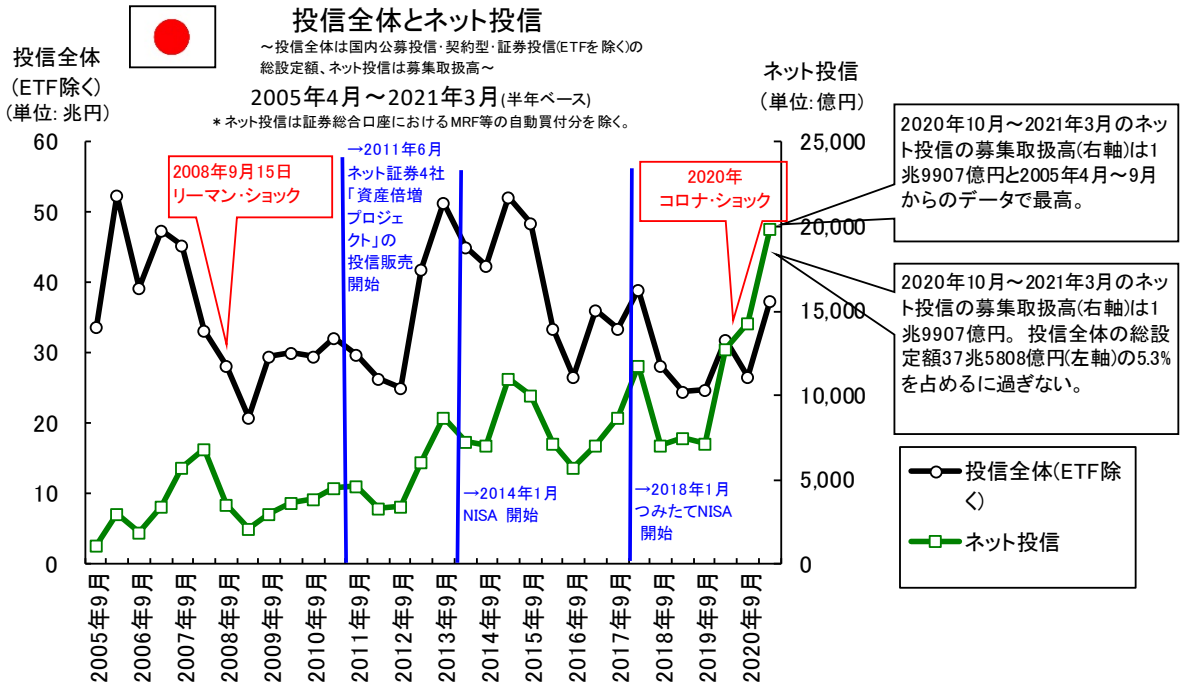
投信のネット取引が過去最高を更新中！ ネット(スマホ含む)の利用が多い若い世代の投信保有が着実に増加!!　若い世代が増えつつあるNISAで引き続きグローバル株と米国株が人気!!!

三菱UFJ国際投信株式会社　商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

●投信のネット取引が過去最高を更新中！ 伸び代は大きく今後の拡大に期待がかかる!!

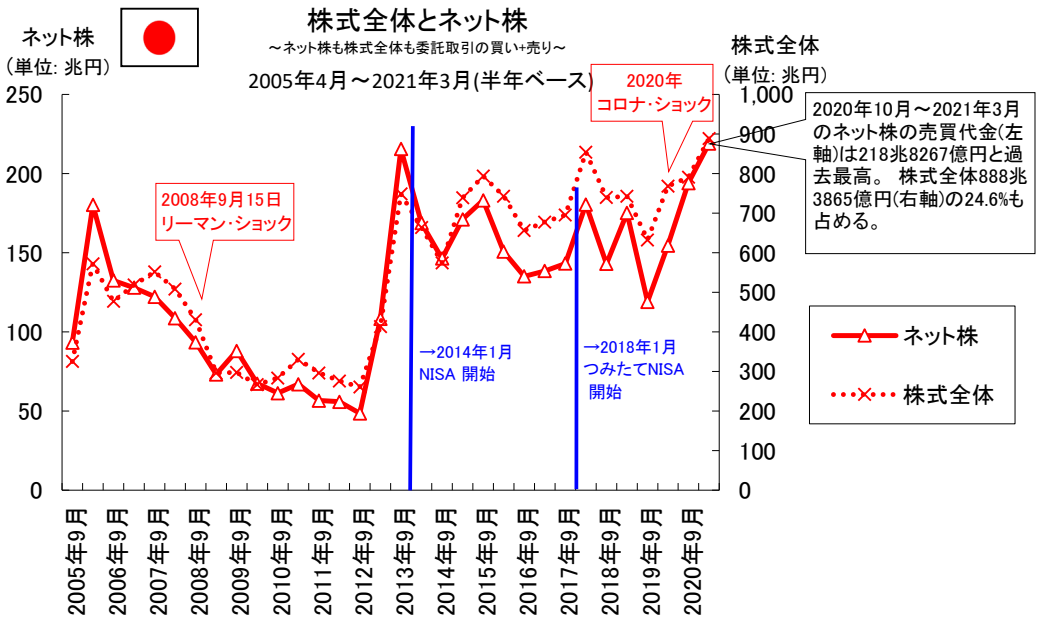
2021 年 6 月 11 日(金)に日本証券業協会が「インターネット取引に関する調査結果(2021 年 3 月末)」(対象会員 264 社)を公表した(URL は後述[参考ホームページ]①参照)。 注目は**国内投資信託で、インターネットによる募集取扱高が 2020 年 10 月～2021 年 3 月の半年間に 1 兆 9,907 億円と、前半期(2020 年 4 月～9 月)の 1 兆 4,251 億円を上回り、過去最高**を更新した事(3 半期連続過去最高更新)である。



(出所: 日本証券業協会・投資信託協会より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

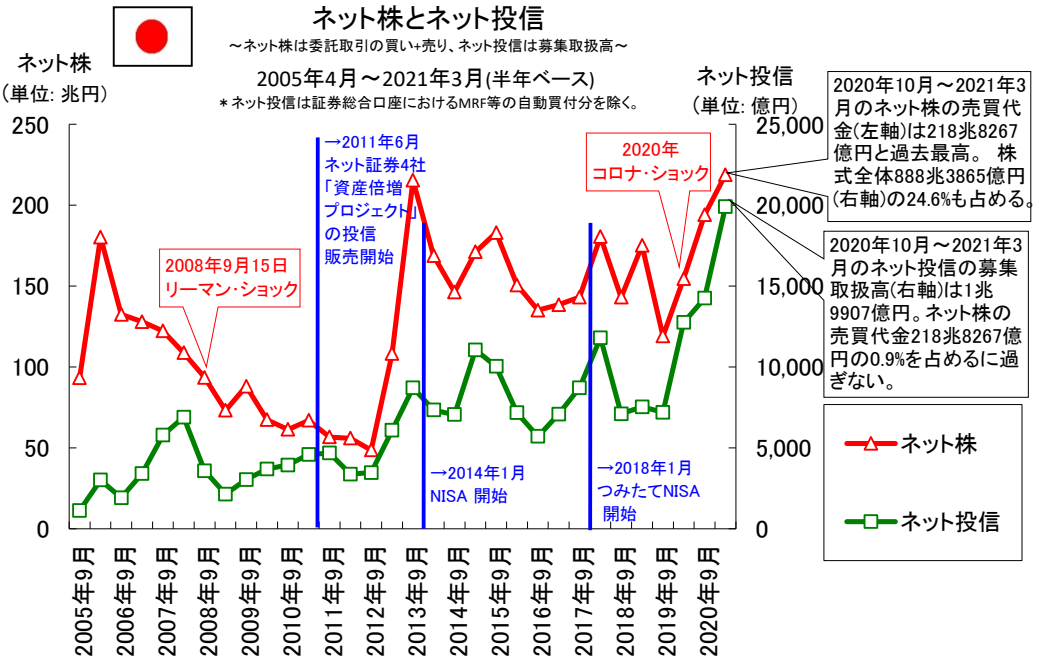
ちなみに、**インターネット証券 3 社の投信残高も 2021 年 3 月末に合計 6 兆 97 億円と、上記の調査結果と同様、過去最高**を更新し続けている(*SBI 証券、楽天証券、マネックスグループの決算説明資料等より集計したもの)。

しかし、インターネット取引が伸びているといっても、ネット投信の規模は投信全体やネット株と比べまだかなり小さい。2020 年 10 月～2021 年 3 月のネット投信の募集取扱高 1 兆 9907 億円は、同時期の投信全体(ETF 除く)の総設定額 37 兆 5808 億円の 5.3%を占めるに過ぎない。 一方、ネット株の売買代金は 218 兆 8267 億円と過去最高を更新、株式全体の売買代金 888 兆 3865 億円の 24.6%も占める。



(出所: 日本証券業協会より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

また、ネット投信の募集取扱高 1 兆 9907 億円はネット株の売買代金 218 兆 8267 億円の 0.9%でしかない。



(出所: 日本証券業協会より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

ネット投信の募集取扱高 1 兆 9907 億円は、投信全体(ETF 除く)の 5.3%、ネット株の売買代金の 0.9%でしかなく、一方でネット株の売買代金は株式全体の 24.6%も占めると言う事だが、これはネット投信の伸び代(のびしろ)の大きさ示すものとも言える。 今後のネット投信の拡大が期待される。

●ネット(スマホ含む)の利用が多い若い世代の投信保有が着実に増加!!

ネット(スマホ含む)の利用が多い若い世代の投信保有も増えている。 日本証券業協会が毎年行う「個人投資家の証券投資に関する意識調査」2020 年でも、「年代が若い層ほど『証券会社のインターネット取引(主にスマートフォン)の割合が高く、年齢が上がるほど証券会社や銀行の店頭の割合が高い」と言う指摘がある(2020 年 10 月 20 日付日本証券業協会～URL は後述[参考ホームページ]①参照)。

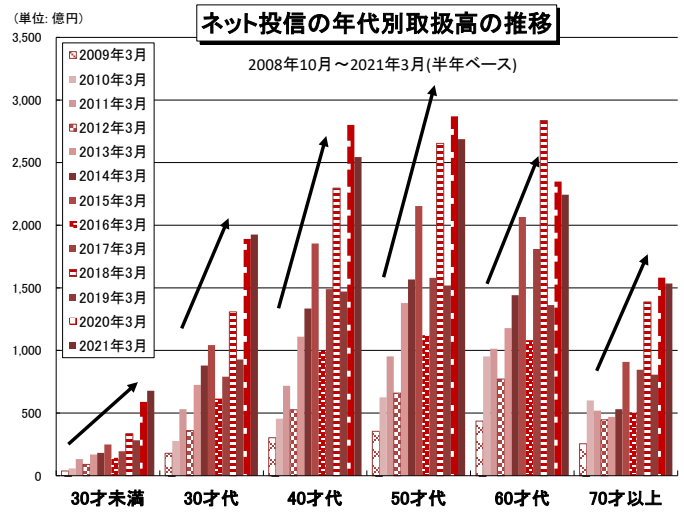
2021 年 6 月 6 日付朝日新聞デジタルは「スマホで手軽に、巣ごもり投資　コロナ禍で若者に広がる」と見出し記事の中で、男性(31 歳)がネット証券に口座を開設し、在宅勤務で生まれた時間に情報を集め、年 40 万円まで非課税で 20 年間投資できる「つみたて NISA」を始めた例を紹介していた(URL は後述[参考ホームページ]①参照)。

投信をネット取引する投資家を年代別に先と同じネット投信の募集取扱高で見る。

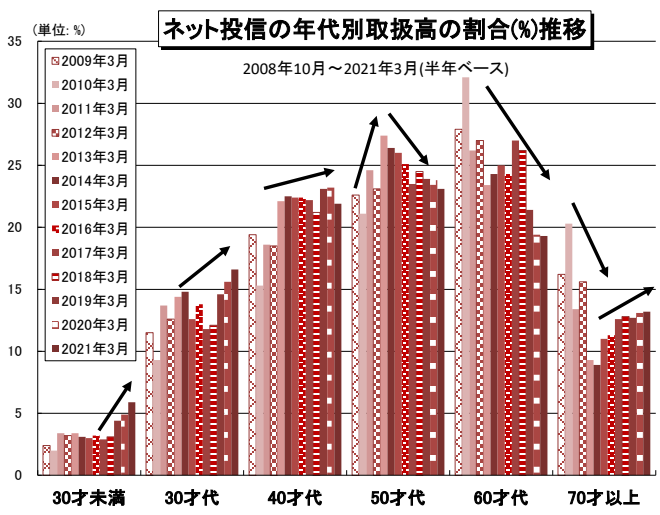
2021 年 3 月末までの半年では、50 才代が 2,687 億円(23.1%)と最も多く、次いで 40 才代が 2,545 億円(21.9%)、60 才代が 2,243 億円(19.3%)、30 才代が 1,926 億円(16.6%)、70 才代が 1,220 億円(10.5%)、20 才代が 625 億円(5.4%)と続き、80 才以上 314 億円(2.7%)、20 才未満 53 億円(0.5%)となっている。

額で見ると、40～60 才代が大きいが、30 才代や 30 歳未満の若年層、70 才以上(かつての 60 才代)の比率が上昇している。 また、2008 年から 2012 年初め頃までは 60 才代が最も大きく、次いで 50 才代だったが、2012 年後半頃から逆転して 50 才代が最も大きくなり、2018 年頃からは 40 才代が 50 才代に次いで大きくなっている。

ネット(スマホ含む)の利用が多い若い世代の投信保有が着実に増えている事がわかる。



(出所: 日本証券業協会より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)



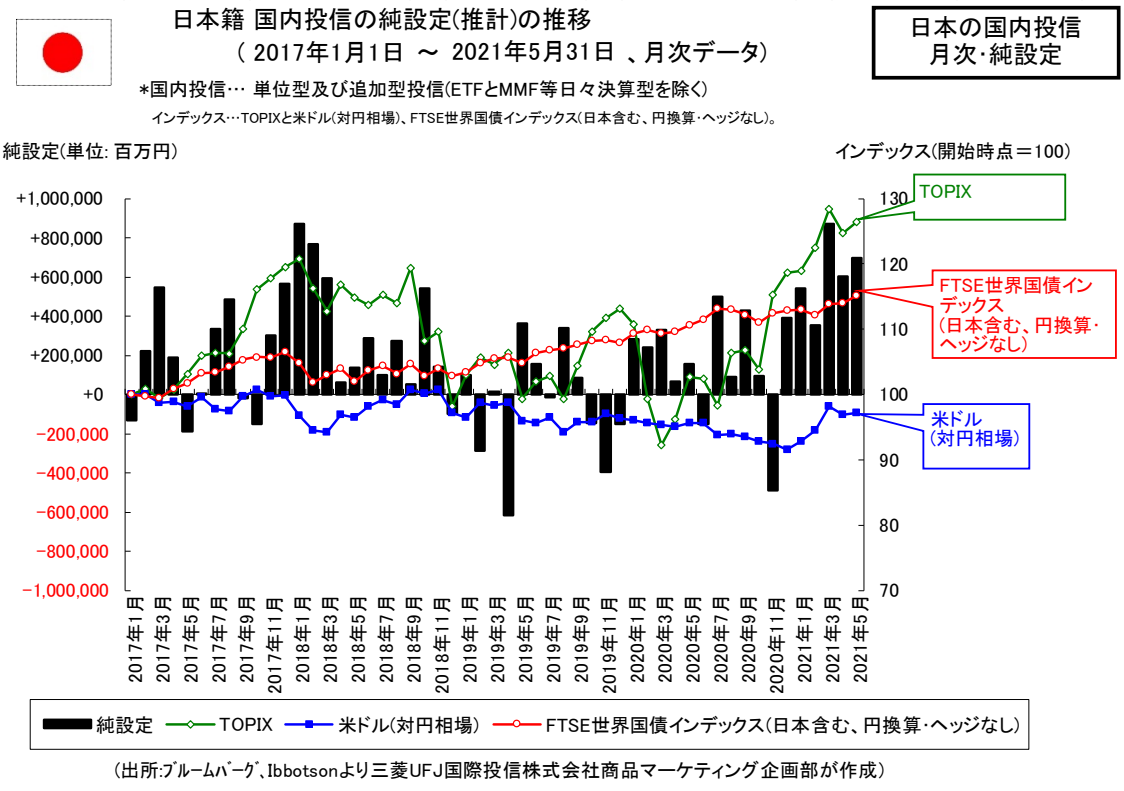
(出所: 日本証券業協会より三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

●若い世代が増えつつあるNISAでは引き続きグローバル株と米国株が人気!!!
～最新の投信全体のフロー、NISA向けファンドのフロー、つみたてNISAのフロー～

ここでインターネットでも取引されるNISAについて、投資家のより参考になるべく、恒例の日本のNISA投資で2021年5月、どの様なファンドが買われたかを見る。 当コラムでは投資家を「既存投資家」と「新規投資家」とに分けている。 前者の「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、後者の「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※1参照)で代替する。 これは日本証券業協会が「NISAを利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URLは後述[参考ホームページ]②参照)と言っている事も参考としている。

<投信全体のフロー～既存投資家(投信全体)ではグローバル株、日本債、米国株～>

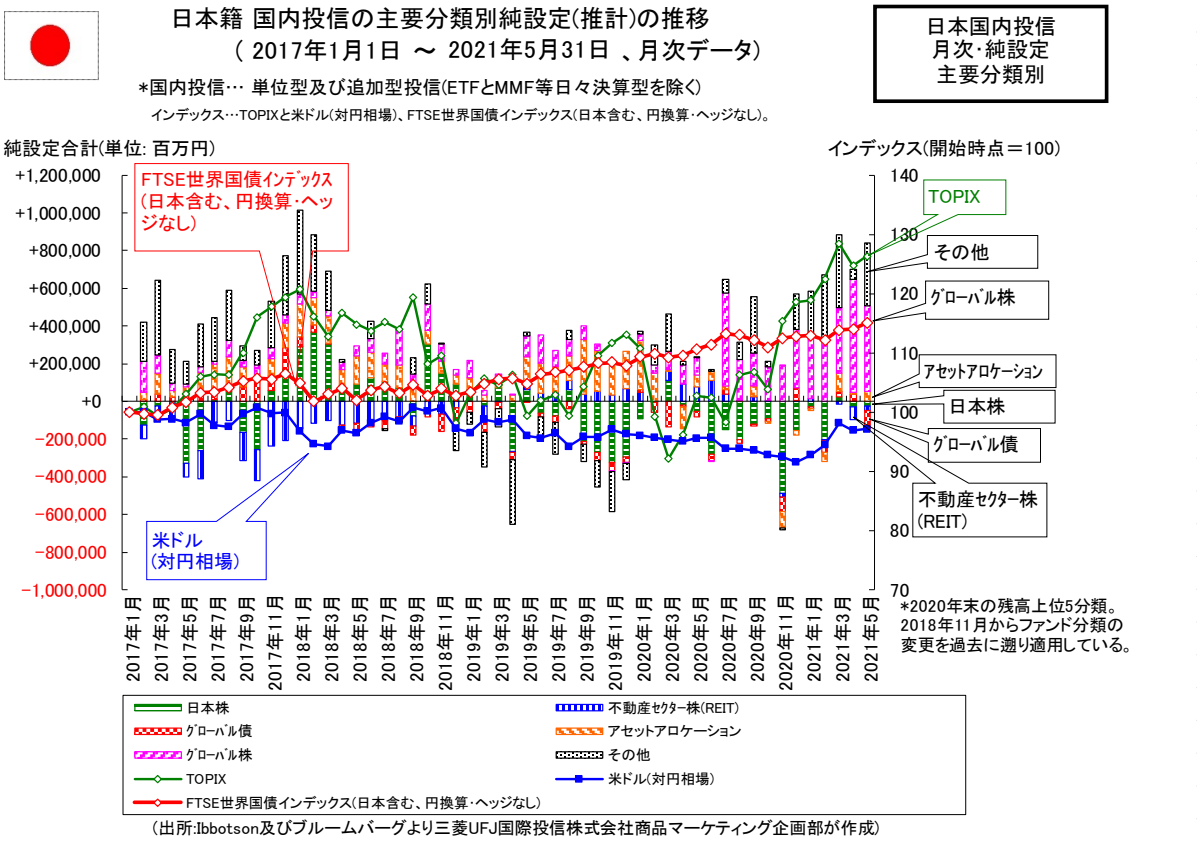
まず、既存投資家の投資を示す投信全体の純設定(推計)を見る。 **最新2021年5月に+6986億円と、前月4月(+6028億円)を上回り、6カ月連続の純流入**となっている。



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

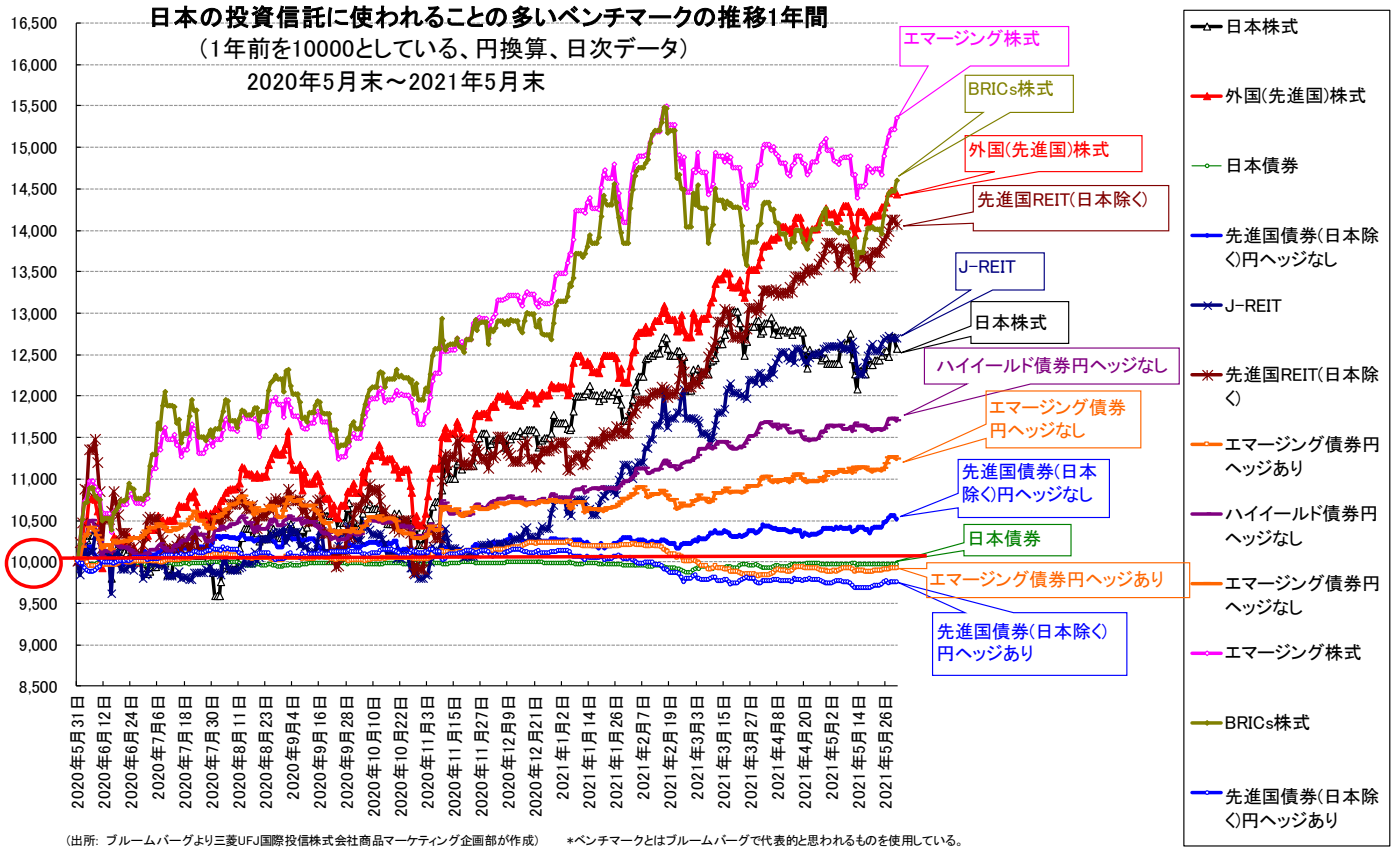
2021年5月の既存投資家の純設定を、投資対象別で見よう(主要分類～後述※2参照)。 次頁に示される通り、**5月はグローバル株+4542億円が前月に引き続き最大で、次いで日本債や米国株**だった(次頁グラフで日本債と米国株は「その他」に含む)。 日本債で純設定額の大きいのはファンドラップ/投資一任口座向けファンドだった。グローバル株については、「主に海外株式で運用する投資信託の人気が続いている。国内公募の追加型株式投信を年初来の資金流入額でランキングしたところ、5月24日時点で上位10本のうち9本が海外株式型だった。」(2021年6月1日付日本経済新聞電子版～URLは後述[参考ホームページ]①参照)とある通り、既に**グローバル株は、2021年(1～5月)の純設定額が+2兆400億円と2020年(1～12月)の約+1.9兆円を超えた**(←2018年+8511億円←2017年+6400億円)。

米国株は 5 月+1803 億円と、24 カ月連続の純流入で、2019 年 12 月以来の大きな純流入となっている。 今年 2021 年(1～5 月)は既に+7380 億円と、前年 2020 年(1～12 月)+1.1 兆円を超える勢いだ。 こうした流入を牽引するのが米国株インデックスファンド、そして AI や SDGs、ESG などをテーマに、グローバル株や米国株に投資する事の多いテーマ型ファンドである。 テーマ型ファンドは日本のみならずグローバルでも昨年 2020 年に飛躍的に資産を増やし、コロナ禍での勝者とも言われる(後述※3 参照)。



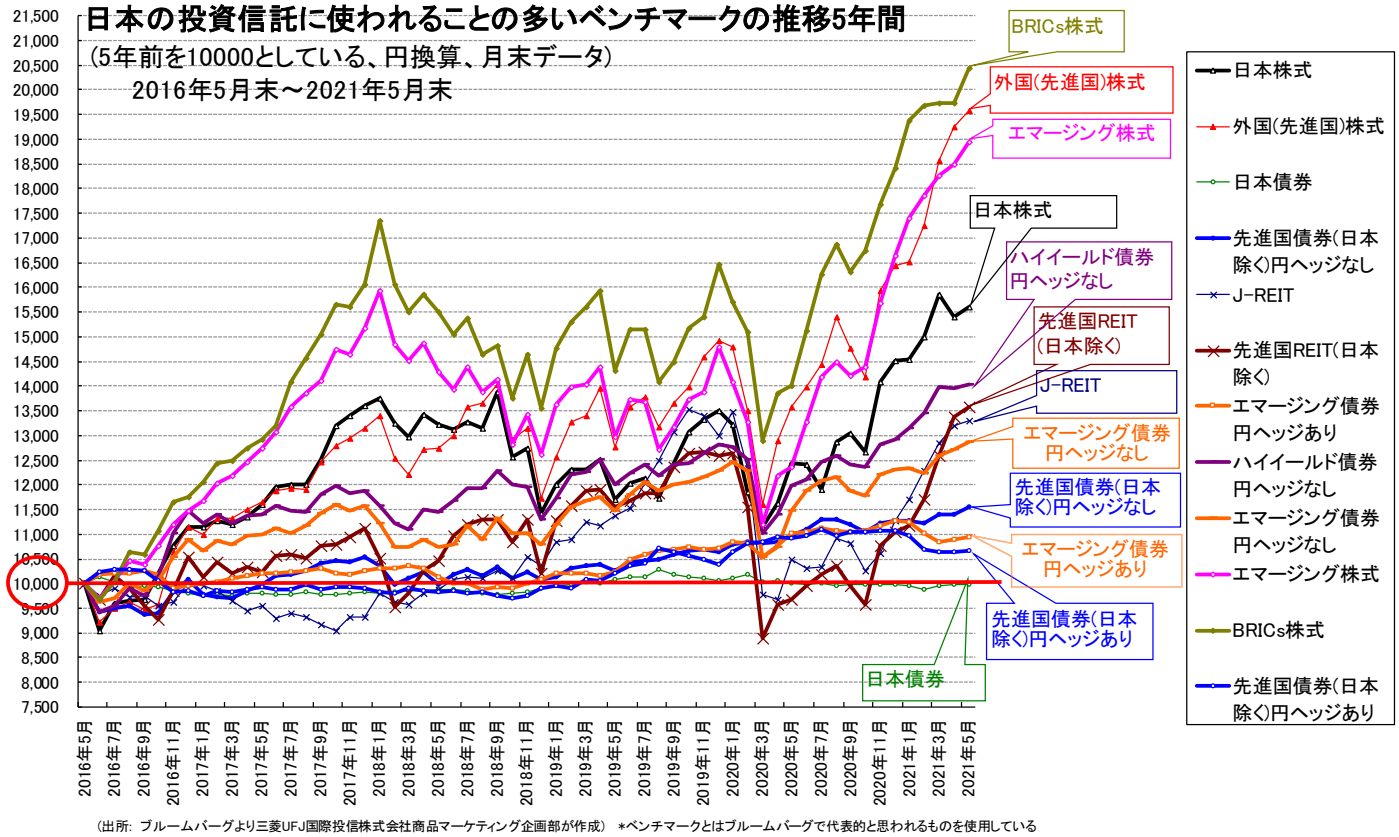
(出所:Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

日本の投信に使われる事の多いベンチマークについて、2021 年 5 月末までの 1 年間パフォーマンス推移を見た。好い順に、エマージング株式、BRICs 株式、先進国株式、先進国 REIT、J-REIT、日本株式、ハイイールド債券、エマージング債券、先進国債券などとなっている(*グラフは 1 年前を 10000 としている、円換算、日次データ)。



（出所：ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成）　＊ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している。

5 年のパフォーマンス推移も見た。 下記がそれで、好い順に、BRICs 株式、先進国株式、エマージング株式、日本株式、ハイイールド債券、先進国 REIT など(*グラフは 5 年前を 10000 としている、円換算、月末データ)。

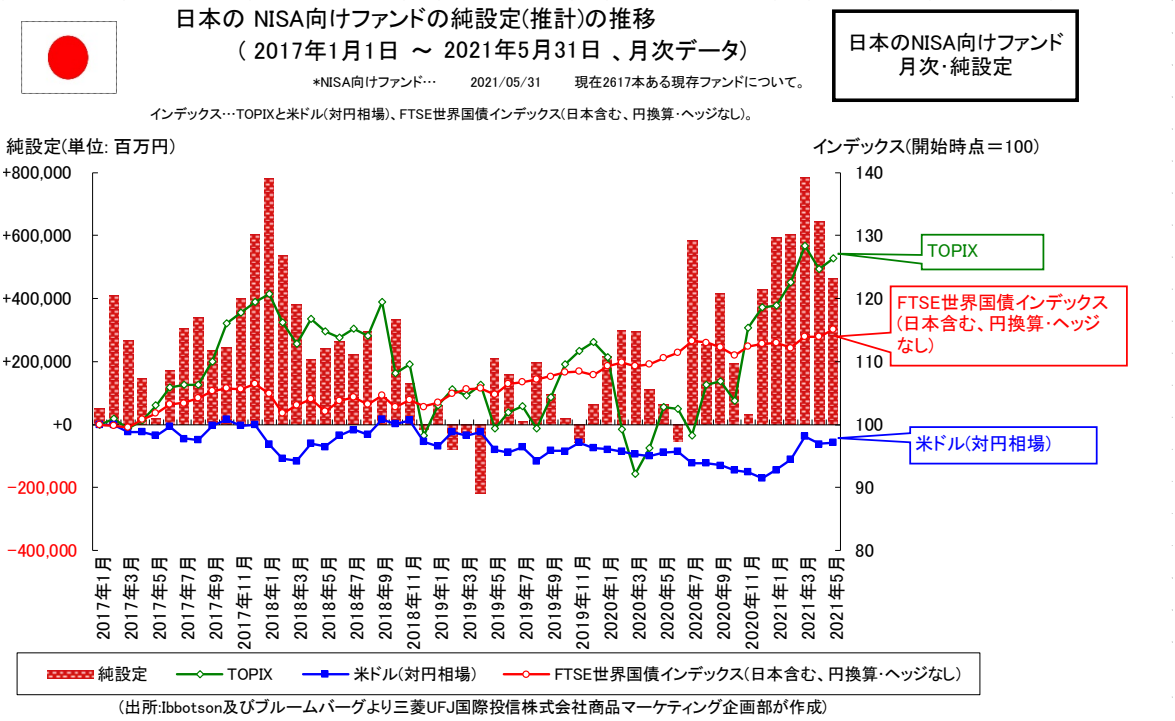


（出所：ブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成）　＊ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している

先進国株式のパフォーマンスは、1 年ではエマージング株式や BRICs 株式に次いで好く、3 年では最も好かった。また、1 年でその先進国株式の次に好かった先進国 REIT(日本除く)は、2021 年 2 月末からの 3 カ月や、2020 年 11 月末からの 6 カ月では上記ベンチマーク中、最も好いパフォーマンスだった。

<NISA 向けファンドのフロー～新規投資家はグローバル株、米国株、テクノロジー株～>

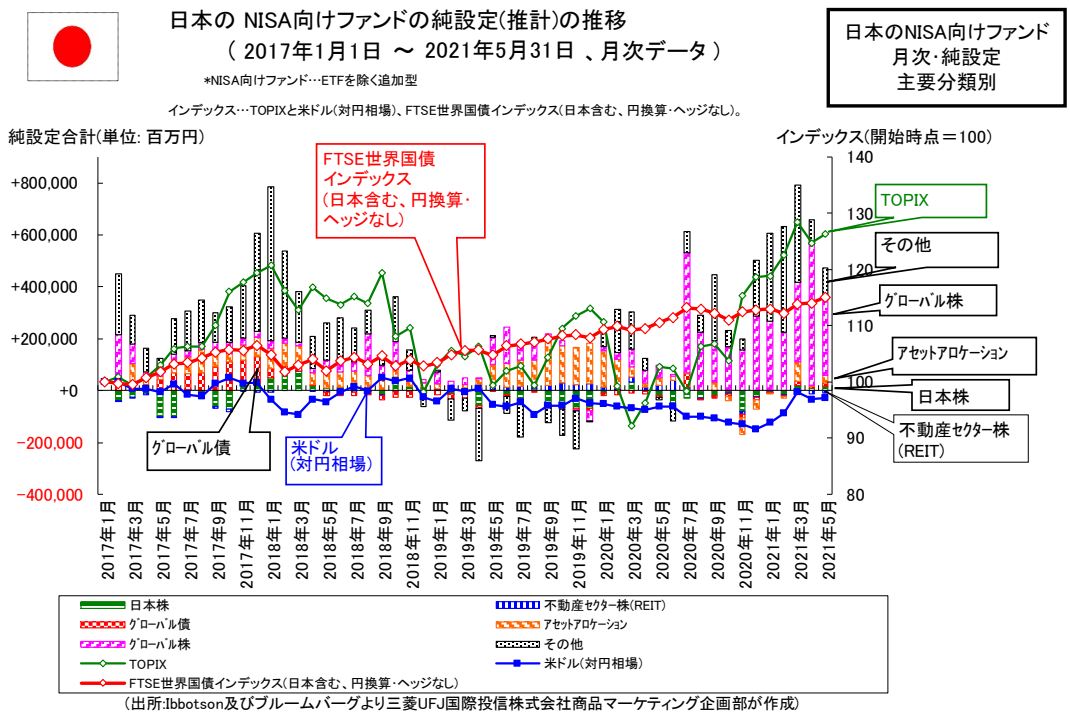
次に、新規投資家の投資に近いと思われる NISA 向けファンドの純設定(推計)を見る。 最新 2021 年 5 月は+4632 億円と、NISA 開始 2014 年 1 月以来で最大の純流入だった 3 月(+7853 億円)から 2 カ月連続で減速も 11 カ月連続の純流入(*NISA 向けファンド…後述※1 参照)。



(出所:Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

投資対象(主要分類)別に見る。 **2021 年 5 月は既存投資家同様、グローバル株が多く、次いで米国株、テクノロジー・セクター株が多い**(下記で米国株やテクノロジー・セクター株は「その他」に含む～後述※2 参照)。 グローバル株とテクノロジー・セクター株の純設定額はそれぞれ+2946 億円、+267 億円と、前月 4 月(+5447 億円、+614 億円)から減少する一方、米国株は+743 億円と 4 月(+345 億円)を上回った。

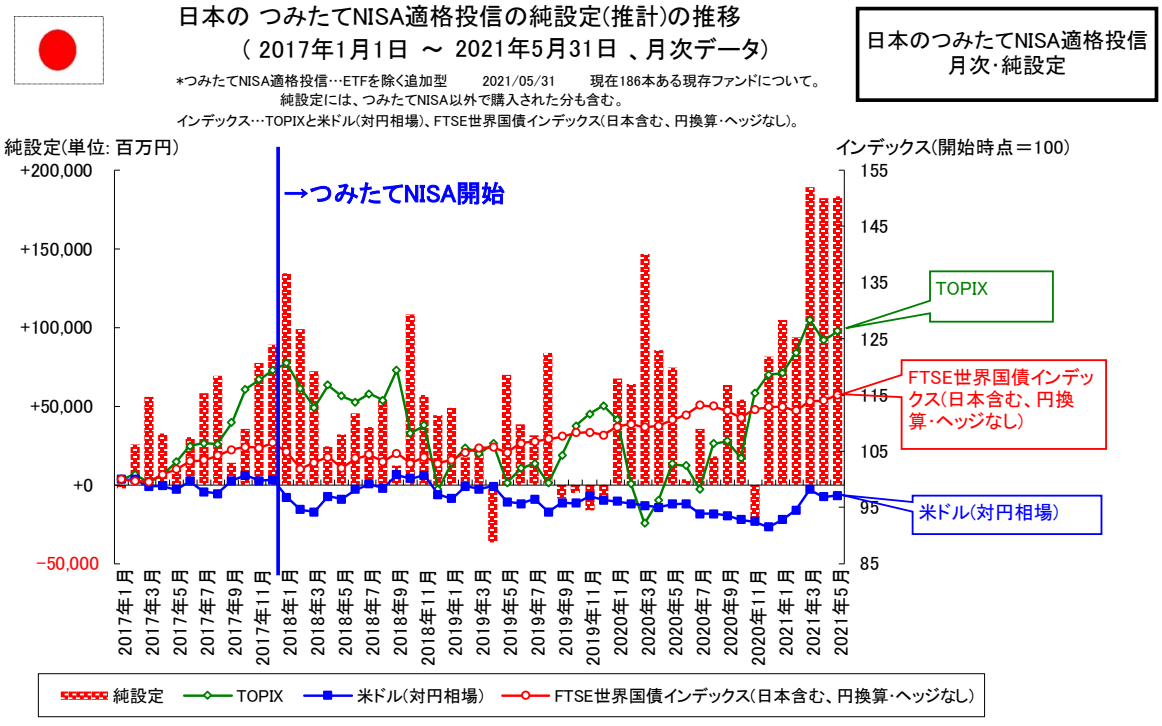
米国株は「若年層の新規購入を背景に、米株インデックス投信への資金流入額は 20 年 3 月のコロナショックを契機に急増。」(2021 年 4 月 20 日付日本経済新聞電子版～URL は後述[参考ホームページ]①参照)と言う流れが、S&P500 など広範な株価指数に連動するインデックスファンド中心に継続している。



（出所:Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成）

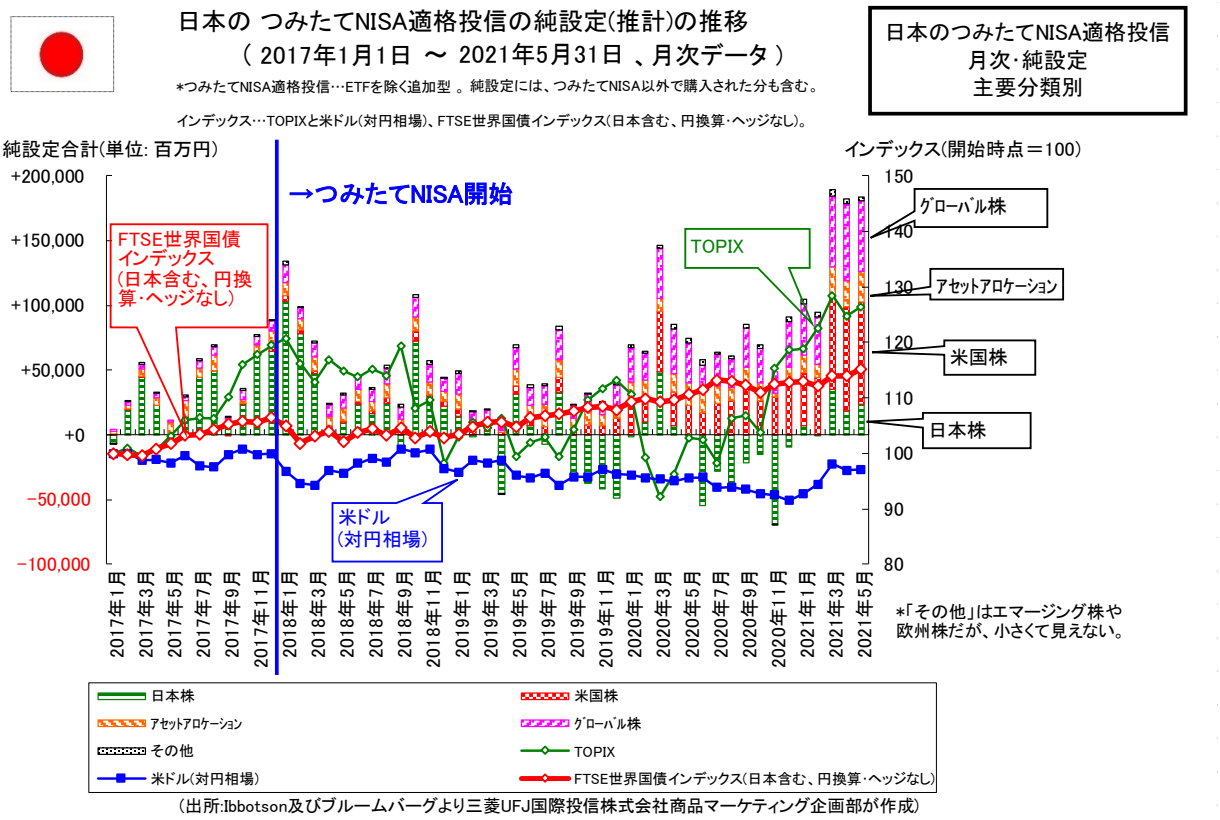
<つみたて NISA のフロー～つみたて NISA 投資家は米国株とグローバル株とアセットアロケーション～>

最後に、つみたて NISA 投資家の純設定を見る(対象及び要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179 ～後述[参考ホームページ]②参照)。 つみたて NISA 適格投信で、つみたて NISA 以外で購入された分を含む(ETF を除く)。 投信純設定は、2021 年 5 月に+1837 億円と、3 カ月連続して、つみたて NISA 開始以来最大の+1800 億円超となった。



（出所:Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成）

投資対象別では **2021 年 5 月に純設定の大きかったのは前月同様、米国株、次いでグローバル株、アセットアロケーションだった**。 個別では米国株(S&P500)インデックスファンドが大きい様である。



(出所:Ibbotson及びブルームバーグより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

NISA をきっかけに投資を始めた人や若い世代を中心に多い「どの商品を購入してよいかわからない」(2020 年 2 月 13 日付投資信託協会アンケート～後述[参考ホームページ]②参照)と言われているものの、NISA で先進国株投信を選び好リターンとなり非課税メリット享受していた投資家は多かったとも言えよう。

NISA をきっかけに投資を始めた人や若い世代はぜひ「先人」の動向も参考にして、資産形成を進めていってほしいものである。

※1: NISA 向けファンド…

投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は下記参照)、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。

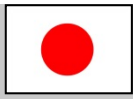
日本証券業協会は「NISA 制度の利用者にとって、短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等は NISA 制度を十分に利用できない場合がある」と言っている(URL は下記参照)。

投資信託協会は 2013 年 11 月 21 日に「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」の中で「NISA においては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的リスクを抑えた商品」と言っている(URL は下記参照)。

尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布された為である。 また、単位型・限定追加型・年 1～2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。 ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1～2 回以外を含めている。 しかし、通貨選択型については、年 1～2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1～2 回でも除いている)。 こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2021 年 5 月 31 日時点で 2617 本となった。

以下、参考 URL である。 金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「 https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html 」、2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「 https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/ 」、2019 年 4 月 26 日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「 http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf 」、2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「 http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/ 」、つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。 これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「 https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf 」。

※2: 主要分類…



モーニングスター分類で 2020 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類である。 グローバル株は、2018 年 11 月 1 日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。 また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。 米国大型グロース/ブレンド株、CB、テクノロジー・セクター株、公益セクター株、通信株、日本債などは「その他」に含む。

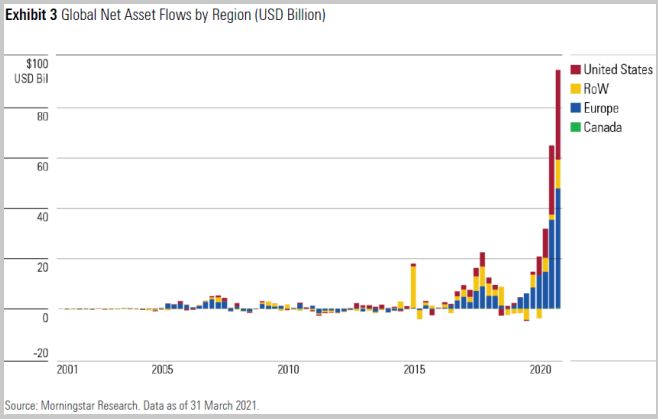
※3: テーマ型ファンドが世界で急拡大!…

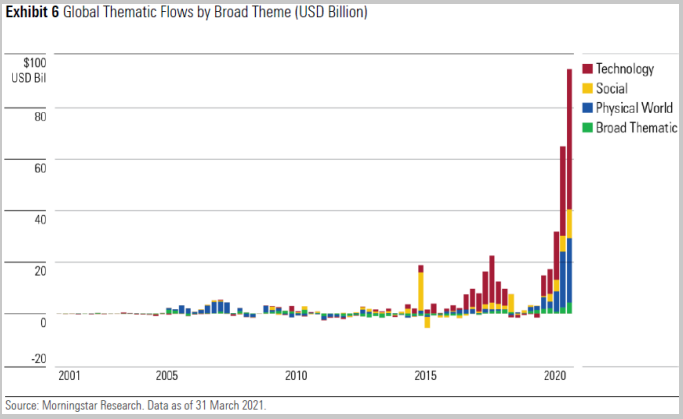
2021 年 5 月 28 日に米国モーニングスターは、世界のテーマ型ファンドに関する年次レポート、第 2 回「Global Thematic Funds Landscape」を発表した(https://www.morningstar.com/lp/global-thematic-fund-landscape?utm_source=corp_comm&utm_medium=referral)。

「新型コロナの感染拡大時には、AI(人工知能)から大麻に至るまで、長期的な成長テーマに投資するテーマ型ファンド(Thematic Funds)が、最大の勝ち組に浮上してきた。 力強いパフォーマンス、持続的に高い資金流入、新規設定が組み合わさり、ファンドの資産を記録的な水準へ押し上げた。…(略)…。2021 年 3 月末に世界のテーマ型ファンドの純資産は 5950 億ﾄﾞﾙ(約 65.4 兆円)と 3 年前の 1740 億ﾄﾞﾙから 3 倍以上に膨らんだ。 2021 年 3 月末までの 1 年の資金純流入は 2070 億ﾄﾞﾙ(約 22.8 兆円)と、その前 9 年間の合計(1270 億ﾄﾞﾙ)を大きく上回る。

この内、米国のテーマ型ファンドへの資金流入は 2021 年 1-3 月に 350 億ﾄﾞﾙ(約 3.8 兆円)と、過去最大に達した。 純資産は 2021 年 3 月末に 1,600 億ﾄﾞﾙ(約 17.6 兆円)を超え、2019 年 12 月末の約 490 億ﾄﾞﾙから 3 倍以上に拡大した。」と言う。

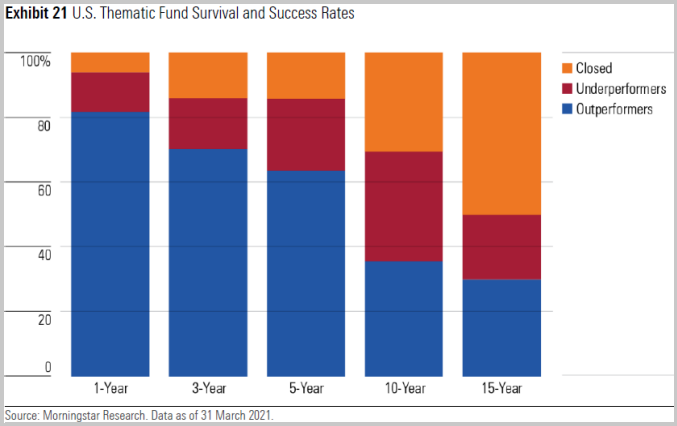
テーマ型ファンドとは、モーニングスターが定義する 1 つ以上の投資テーマに基づいて銘柄を選定する株式ファンドで ETF を含む。 サステナブルファンドについては、(広範でなく)具体的なテーマを目指すものをテーマ型ファンドに含む。

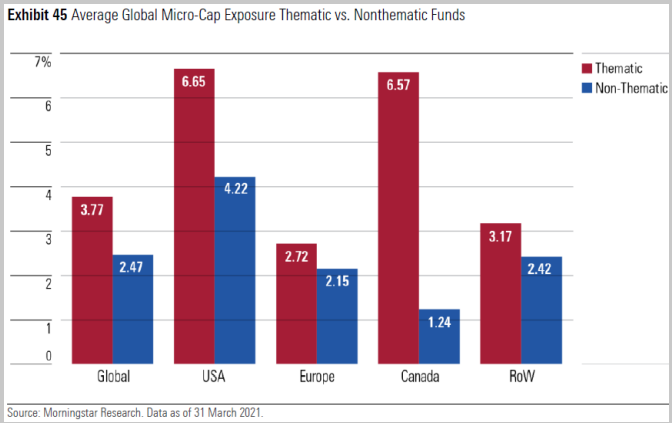




(出所: 2021 年 5 月 28 日付 Morningstar「Global Thematic Funds Landscape」~https://www.morningstar.com/lp/global-thematic-fund-landscape?utm_source=corp_comm&utm_medium=referral)

一方、モーニングスターは、「テーマ型ファンドはコストが割高な事もあり、長期的にアウトパフォームするテーマ型ファンドを選ぶことは難しい。 2021 年 3 月末までの 1 年では、米国のテーマ型ファンドの 3 分の 2 が、グローバル株のベンチマークを上回った。 しかし、10 年では 3 割のファンドが償還、アウトパフォームしたファンドは 36%へ低下、15 年では半数以上が償還し、グローバル株をアウトパフォームしたのは、わずか 22%に過ぎなかった。小型株や超小型株に投資するテーマ型ファンドでは流動性も懸念される。」と指摘している。





(出所: 2021 年 5 月 28 日付 Morningstar「Global Thematic Funds Landscape」

~ https://www.morningstar.com/lp/global-thematic-fund-landscape?utm_source=corp_comm&utm_medium=referral)

以　上

[参考ホームページ]
①2021 年 6 月 11 日付日本証券業協会「インターネット取引に関する調査結果(2021 年 3 月末)」…
「 https://www.jsda.or.jp/shiryoshitsu/toukei/files/netcyousa2021.3.pdf 」、
2020 年 10 月 20 日付日本証券業協会「個人投資家の証券投資に関する意識調査」2020 年…概要
「 https://www.jsda.or.jp/shiryoshitsu/toukei/2020kozintousika3.pdf 」、報告書「 https://r.nikkei.com/article/DGXZQOUB00005_X20C21A5000000?type=my#AAAUgjYwMA 」、
2021 年 6 月 6 日付朝日新聞デジタル「スマホで手軽に、巣ごもり投資　コロナ禍で若者に広がる」…
「 https://www.asahi.com/articles/ASP6646V5P5XULFA036.html 」、
2021 年 6 月 1 日付日本経済新聞電子版に「投信マネー、ESG・イノベーション関連に流入」…
「 https://r.nikkei.com/article/DGXZQOUB00005_X20C21A5000000?type=my#AAAUgjYwMA 」、
2021 年 4 月 20 日付日本経済新聞電子版「インデックス投資のイロハ（上）手始めは米国株」日経ヴェリタス 2021 年 4 月 18 日号より抜粋…「https://r.nikkei.com/article/DGXZQOUB069J80W1A400C2000000?type=my#AwAUAgAANTc3ODc2 」、

②2020 年 6 月 19 日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について（ガイドライン）」…「 http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf 」、
金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「 https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html」、
つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。 これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…
「 https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf 」、
2020 年 2 月 13 日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査結果-2019 年」」…
「 https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2019/ 」。

**三菱 UFJ 国際投信【投信調査コラム】日本版 ISA の道 バックナンバー:
「各年ごと…https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html 」、
「2013 年 2 月 1 日付日本版 ISA の道　その 1 から一気に見る/検索する…
https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html 」もしくは
Google 等で「投信調査コラム」もしくは「日本版 ISA の道」と検索。**

本資料に関してご留意頂きたい事項

○当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
○当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
○当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
○当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
○当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
○投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
○投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
○投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
○投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
○クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
○投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について
□本資料中の指数等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、発行者および許諾者が指数等の正確性、完全性を保証するものではありません。
□ブルームバーグ（BLOOMBERG）は、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピー（Bloomberg Finance L.P.）の商標およびサービスマークです。バークレイズ（BARCLAYS）は、ライセンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ピーエルシー（Barclays Bank Plc）の商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社（以下「ブルームバーグ」と総称します。）またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックス（BLOOMBERG BARCLAYS INDICES）に対する一切の独占的権利を有しています。